

生活環境を考えたウ蝕予防計画

木村 典子（福岡市・緒方小児歯科医院）

小児のウ蝕予防の方法は、保健指導としてブラッシング指導、食事指導、生活指導があり、薬物による予防処置としてフッ化物の応用、フッ素入りセメント填塞、小窩裂溝へのシーラント填塞等があり、それぞれ効果をあげている。しかし、すべての場合において、小児の背景である家庭生活、および環境を考慮し行わなければその効果を十分にあげることができない。

小児を取り囲む環境には、指導により改善不可能な環境として親の職業、兄弟の有無、出生順位、住宅環境、保育園や幼稚園に代表される育児環境などがあり、指導により改善可能な環境として、祖父母との関係、母親の養育態度、口腔衛生意識の程度などがある。指導により改善不可能な環境をふまえ、改善可能な環境を良好にしなければならない。すなわち、より一層のウ蝕予防効果をあげるためには、家庭及び環境を分類、把握した上でそれに対応した予防計画が必要である。

今回われわれは、家庭環境を中心とした生活環境を分類し、それに評価を加えてウ蝕予防との関連づけを行った。その結果に検討を加え報告する。